

令和2年度 第1回 学術情報ネットワーク運営・連携本部会議 議事要旨

日 時： 令和2年10月22日 14:00-16:30

場 所： Web 会議システムにより開催

議 事：

1. 前回議事要旨確認

喜連川本部長から、資料3に基づき説明があり、了承された。

2. 次世代学術研究プラットフォーム（ロードマップ2020）及び今後の進め方について【審議事項】

喜連川本部長から、資料4に基づき、次世代学術研究プラットフォームの概要と今後の進め方について説明があり、次の質疑応答があった。

- ・ 認証基盤の機能を強化する必要があるのではないか。学認は機関が導入するにあたり企業がその枠組みに組み込み難いなどの問題もあり、現在の技術レベルにあわせたアップデートも必要と考える。
 - 産学連携にかかる認証の問題について、ニーズを調査し検討を始めている。
 - 学認で利用している技術は10年ほど前のものであり、新しい技術をキャッチアップするため、研究開発の強化をお願いしたい。
- ・ 画像データを大量に取り込み、「富岳」で解析するといったワークフローがよりスムーズにできることが期待される。一方で、各地に分散する大量のデータにネットワーク経由でアクセスし易くなり、それをもとに研究を行うという科学手法が常態化してきたとき、特に SINET の末端がトラフィックに耐えうるのか若干懸念はある。
 - ネットワークをリデザインする場面が発生する可能性はある。世の中の流れを先取りし、考えていきたい。
- ・ 東大など9大学とNII・産総研が連携してデータ処理基盤 mdx を構築している。GakuNin-RDM や学認との連携により、敷居が低くスピード感のあるプラットフォームとすることを目指している。一方、ここでも支援企業をどのように組み入れることができるかが課題。COVID-19以降のオンライン授業等、各システムの認証がバラバラになっている点が問題となっていて学認の活用を進めていきたいと考えており、学認で新技術を導入するのであれば、タイムリーに共有いただきたい。
 - NII のデータ基盤は mdx より1年あとから運用を開始する予定であり、人文科学などを含め、多様な機関で共通的に利用いただける基盤を目指す。
- ・ 高エネルギー研究ではネットワークに依存しているので、引き続き宜しく願いたい。データ管理について高エネルギー分野では独自の世界共通なシステムが

あるが、その周辺分野のプロジェクトでは GakuNin-RDM 等は有効ではないかと考えていて需要喚起を検討したい。

- 高エネルギーなど、固有のデータ管理・共有方法が成熟している分野についても GakuNin-RDM と連携できるよう、コミュニケーションを深めさせてほしい。

審議の結果、本案に沿って計画を進めることが了承された。

3. NII-SOCS 研究用データ提供に関する約款等について【審議事項】

岡部委員（セキュリティ作業部会主査）より、資料 5 に基づき、NII-SOCS 関連約款の策定について説明があり、次の質疑応答があった。

- ・ 部会の中で緻密に議論されたものであり、関係者前提ではなく広くデータが必要な方々に活用いただくための条件づけが整理されていると考える。
 - 現時点では、利用できるのは NII-SOCS 参加大学に所属する研究者に限られるが、最先端の研究に活用いただき、利用者からのフィードバックを受けながら、今後の拡大も視野に検討していきたい。
- ・ NII-SOCS 所属機関だけではなく、セキュリティの研究者により広く使ってもらえるよう、今後のフェーズに期待したい。
 - より広く活用いただきたい一方、各大学のデータが NII-SOCS 非参加機関に出ていくことに対して、各大学が抵抗感を覚えることも予想されるので、段階を踏んで進めており、また、攻撃者にデータが渡ることがないように担保する必要もあり、慎重に進めている点は皆様にご理解をいただきたい。
- ・ 申込は既にできる形になっているのか。
 - まだ開始していない。規約が承認を受けたのち、申込を受ける予定である。

審議の結果、本案のとおり策定することが了承された。

4. 研究データ基盤の検討体制について【審議事項】

小野課長より、資料 6 に基づき、研究データ基盤の検討体制について説明があり、主に以下の意見があった。

- ・ 委員会の役割が変化するのにあわせて、会議体の体制を見直すものであり、案に賛成する。
- ・ 研究データ基盤のように新しいテーマにあわせて会議体を調整するのは良いことである。

審議の結果、本案のとおり進めることが了承された。

5. ネットワーク事業・作業部会報告

漆谷委員（ネットワーク作業部会主査）より、資料 7 に基づき報告があり、以下の質

疑応答があった。

- ・ 小中高を対象として、何か付加価値的なサービスは計画されているか。
 - 令和3年度の概算要求で示されている範囲では、まずは SINET への接続性を持たせることまでとされている。今後、本格展開を行うまでに、付加価値的な機能に関する議論が進むことを期待している。
- ・ ローカル 5G 環境の整備について、今後の方向性はいかがが。
 - 本年末に新しい規格が策定され、より経済的に整備できる可能性が出てきているが、早急な展開は無いと考えていて、各機関と連携しトライアルを重ね経験値を積みながら少しずつ進めていきたいと考えている。

6. クラウド事業・作業部会報告

合田委員（クラウド作業部会主査）より、資料8に基づき報告があり、以下の質疑応答があった。

- ・ クラウドサービスの詳細について情報を得たいとき、どうすればよいか。
 - 既に学認クラウドに参加している機関は、機関の担当者が Web から情報をご覧いただくことが可能となっている。

7. セキュリティ事業・作業部会報告

岡部委員（セキュリティ作業部会主査）より、資料9・10に基づき報告があった。

8. 情報セキュリティポリシー推進部会報告

曾根委員（情報セキュリティポリシー推進部会主査）より、資料11に基づき報告があり、関連して以下の意見があった。

- ・ NII-SOCS からの情報やセキュリティポリシーサンプル規程集をいつも参考としており、感謝申し上げる。

9. オープンサイエンス事業・作業部会報告

山地委員（オープンサイエンス作業部会主査）より、資料12に基づき報告があり、以下の質疑応答があった。

- ・ 研究データ基盤で保管するデータは恒久的に保存する必要があると思うが、次世代学術研究プラットフォームの事業年度は2027年までとなっている。そのあとはどのように考えているか。
 - データを廃棄するための要件や手続きについては、まだ議論が進んでいないところであり、各大学と実践を進める中で検討することになると考える。
- ・ GakuNin-RDM のストレージは各機関で用意するものと NII から提供される共有ストレージもあるが、今後、これが課金されることになる可能性はあるか。

- NII で提供するストレージはミニマムのものである。各機関でストレージを用意いただくとしても容易に調達はできないと思われるので、共同調達の枠組みなども使いながら、機関のストレージを賄う仕組みを提供したいと考えている。具体的な運用については、新たに作る運営委員会の中で議論していきたい。

10. 学術認証事業状況報告

坂根学術認証推進室長より、資料 13 に基づき報告があり、関連して以下の意見があった。

- eduroam サービスも学認と密接に関係したサービスであるので、学認の議論と併せて議論を進めていただきたくお願いしたい。

11. 2020 年度学術情報基盤オープンフォーラム活動報告

佐藤学術基盤課長より、資料 14 に基づき報告があった。

12. その他

真鍋委員から、本会議の資料を共有することが可能か、質問があった。資料作成者の各委員に可否を確認し、改めて回答することとした。

次回開催日は、後日事務局から開催候補日について案内する旨連絡があった。

以上